

I T活用中学校美術科学習指導案

作成者 教育センター指導主事

1. 校 種 中学校

2. 対象生徒 第1学年

3. 教科等 美術1

4. 題材名 『イメージを伝える』～色の感情・文字の表情～

5. 題材の指導計画（総時数7時間）

第一次 色のイメージ「色の感情を探ろう」・・・・・・・・・・・・（1時間）

第二次 文字のイメージ「文字の表情を見つけよう」・・・・・・・・・・・・（1時間）

第三次 イメージを伝える「色と文字の効果的な組み合わせをつくろう」

1時 四字熟語のイメージを考えよう

2時 四字熟語のイメージをつくろう（文字の形）

3時 四字熟語のイメージをつくろう（文字の色・背景の色）・・・・・・本時

4時 四字熟語のイメージをつくろう（色と形のメッセージ）

（第三次の計4時間）

第四次 プレゼンテーション「イメージを伝えよう」・・・・・・・・・・・・（1時間）

6. 本時の学習

(1) 題 目 四字熟語のイメージをつくろう（文字の色・背景の色）

(2) ねらい

色や文字の形のそれぞれの感情や表情、その働きに関心をもち、それを表現に生かそうとし、意欲的に取り組み、創意工夫しようとしている。 【美術への関心・意欲・態度】

色や文字の形の様々な組み合わせによる効果を考え、想像力を働かせて、豊かに発想し構想を練り、表現に生かす工夫をする。 【発想や構想の能力】

色や文字の形の働きを考え、意図に応じた表現の工夫をし、自分の伝えたい内容を相手に分かりやすく美しく表現する。 【創造的な技能】

(3) I T教材を使う意図

視覚伝達デザインでは「色」と「形」のそれぞれのイメージを効果的に利用することが大切である。また、「文字」による表現もコミュニケーション手段として有効であり、書体の違いによる様々な表情と「色」の感情を効果的に組み合わせることでイメージをよりの確に伝えることができる。この教材では、一般的なワープロソフトを用いることで文字入力・フォントやポイントの変換・色の置き換えが比較的容易に行うことができ、イメージにあった書体と配色を効果的に組み合わせた作品をモニター画面でいろいろ試しながら制作できる。

(4) 使用ソフト Microsoft 社 Word2002、Microsoft 社 PowerPoint2002

(5) 展 開

欄	学習過程	生徒の学習活動	教師の指導・支援	評価規準
5分 導入	1 前時までの振り返り 2 本時の制作過程を確認	○制作シートⅢとⅣ－1で四字熟語のイメージと文字の形を確認する ○制作シートⅣ－2の制作手順を聞く	・文字のフォントをイメージ通りに選ぶことができるか確認させる ・制作手順の要点を説明する ・四字熟語の文字入力、フォント・ポイントと文字色・背景色の変換方法を確認する ①	
40分 展開	3 四字熟語を入力する 4 文字の色をつくる 5 背景の色をつくる 6 文字の色と背景の色を組み合わせる 7 印刷する	○制作シートⅣ－2に四字熟語を入力し、文字のフォントとポイントを選択する ○文字の色を変換し、イメージにあった色を探す ○背景の色を変換し、イメージにあった色を探す ○文字の色と背景の色の組み合わせを試しながら効果的な配色を探す ○プリンタで制作シートを印刷する	・四字熟語のイメージにあったフォントとポイントが選択できているかを確認する ・色の感情や表情、その働きを考えながら文字の色、背景の色を次々に変換させ、できるだけ多くの色を試させる ・色の感情や表情、働きについて確認する ・色の組み合わせによる効果を確認する ② ・色の組み合わせによる効果を確認させながら、イメージをよりの確に表せるような配色を見つけさせる ・モニター画面上の色とイメージの違いがないか確認させる	【美術への関心・意欲・態度】 色や文字の形の働きに関心をもち、意欲的に取り組み、創意工夫している (行動観察) 【発想や構想の能力】 色や文字の形の組み合わせによる効果を考え、表現に生かす工夫をする (行動観察、制作シート)
5分 まとめ	8 作品制作の振り返りとデータの保存 9 次時の予告	○イメージにあった文字と背景の配色ができたか確認し、データと制作シートを保存する ○次時の予告を聞く	・データに名前を付けさせ、各自のフォルダに保存させる ・プリントアウトした制作シートをファイルに綴らせる ・次回は、本時の制作をもとに制作シートⅤで作品を完成させることを伝える	【創造的な技能】 意図に応じた表現の工夫をし、相手に分かりやすく表現する (データ、制作シート)

『イメージを伝える』 ～色の感情～

暖かい感じの色



暖色

②について

プレゼンテーション教材

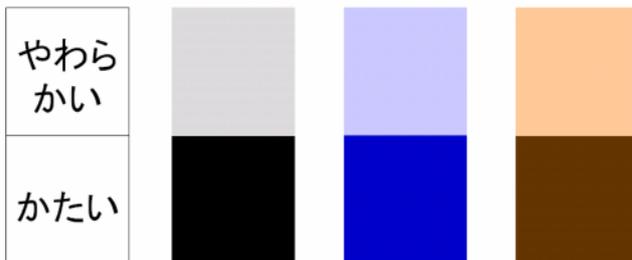
「色の感情」

(第一次 及び 第三次・本時)

- ・ 暖色・寒色の効果を確認する。
- ・ 色の対比 (明度対比、色相対比、彩度対比) を確認する。

『イメージを伝える』 ～色の感情～

イメージの対比



②について(2)

プレゼンテーション教材

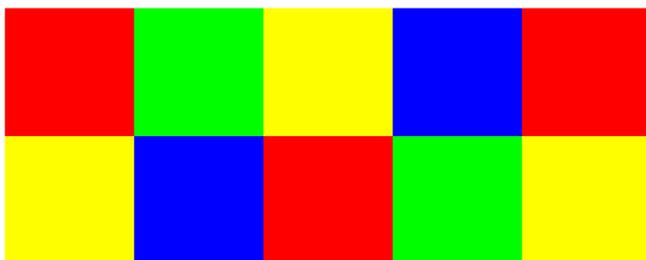
「色の感情」

(第一次 及び 第三次・本時)

- ・ それぞれの色がもつイメージと組み合わせの効果を確認する。

『イメージを伝える』 ～色の感情～

「楽しさ」のイメージ



②について(3)

プレゼンテーション教材

「色の感情」

(第一次 及び 第三次・本時)

- ・ それぞれの色がもつイメージを組み合わせで効果的な配色を発想・構想する。

「イメージを伝える」～文字の表情～

「ことば」のイメージ



プレゼンテーション教材

「文字の表情」

(第二次 及び 第三次・2時)

・ 文字のさまざまな書体を知り、それぞれの書体も
つイメージを確認し、言葉のイメージに合う書体を発
想・構想する。

「イメージを伝える」～文字の表情～

「四季」のイメージ



プレゼンテーション教材

「文字の表情」(2)

(第二次 及び 第三次・2時)

・ それぞれの書体もつイメージを確認し、書体の効
果で季節感が表現できることを知る。

「イメージを伝える」～文字の表情～

「四字熟語」のイメージ



プレゼンテーション教材

「文字の表情」(3)

(第二次 及び 第三次・2時)

・ 四字熟語のイメージをよりの確に伝えられる文字の
書体と効果的な書体の組み合わせを発想・構想する。



「制作シートⅤ」
(第三次・4時)

- ・ 文字の形と大きさ、文字の色と背景の色の組み合わせで、四字熟語の意味をよりの確なイメージで伝えることができるよう表現を工夫する。



「制作シートⅤ」(2)
(第三次・4時)

- ・ 文字の配列も工夫して、四字熟語の意味を分かりやすく的確に相手に伝えることができるよう表現を工夫する。

※1 コンピュータに入力した色がモニター画面やプロジェクターによって違った色や明るさに見える場合、ワープロソフトやプレゼンテーションソフトはコンピュータにインストールの仕方によってフォントがなかったり文字の位置がずれたりする場合もあるので、色や明るさと文字のフォント・ポイントの確認を事前に十分に行っておく必要があります。

※2 生徒が制作シートをコンピュータに保存する際は上書き保存させずに新しい名前をつけて保存させ、制作過程を振り返ることができるようにすることが大切です。